

中田 國太郎 選 投稿数17首

足腰の自由は無くも手は動くと折り紙せし母險に熱し 下日野沢 浅見 豊子
 (評)人は、高齢になればなるほど足や腰の自由が奪われて日常の行動範囲が狭くなるのが自然である。作者の母の、残された動く手で真剣に折り紙に取り組んでいた姿に強く打たれた。この母に対する慕情を結句の「險に熱し」と集約して表現した。見事である。人間は生きていく限り、その証を求めめるのである。手足の自由を失って口で画家として大成した人もいる。小野興二郎にこんな歌がある。「あきもせずひと日もたれて椅子に居るわがかなしみにふるるな人よ」新井作姑を思う心情が哀切にひびく。眞下作澄んだエゾハルゼミの声がききたい。
 亡き姑に夢で出逢えば手をにぎりほのかなぬくもり我をつつみぬ 皆野 新井 愛子
 梅雨晴の三峰宮に詣れば蝦夷春 の声すがすがし 三沢 眞下 杏子
 高齢の丹精こめし茄子胡瓜曲がりがあれば無農薬なり 皆野 新井 茂
 秋葉原罪なき市民の惨状に何が起因か思索が続く 上日野沢 四方田利男
 手を叩き声上げての喜びは失せし胡麻種子見つかかりし宵 皆野 金子善次郎
 母親と同じ職業選びたる保育士の孫よ努力の毎日 三沢 新井 叶子
 花房の中から生まる稗粟はやはらかなりて緑兎のごと 三沢 新井 民子
 まり弾む如し咲き充つ紫陽花は梅雨寒なるも と色冴ゆ 金崎 山田 雅子
 長雨を我が世の春と七変化色失うもさだめなるかな 皆野 笠原三江子
 幻想曲聞きつつ眠る我が窓辺螢の青き眺む幸福 下日野沢 安井 光代
 故郷の涼しき沢辺変り果てカジカ取りたる幼き笑顔 皆野 塩田 千代
 親燕雛の餌競ふ雨の日も吾子を育む連休なきごと 下日野沢 山本ミチノ

引間 豊作 選 投稿数22句

あじさいの彩を急かせる雨頻り 三沢 新井 叶子
 (評)紫陽花は、あず(集まる)さい(藍色)から生まれた語という。あずさい、よひらなどは古名で、野生のがくあじさいの園芸改良種で、開花してより順に色彩が変化するところから、七変化とか八仙花などと呼ばれる。花期は比較的花もの少ない梅雨の最中になるため、大柄の花姿が段と目立つ。この句では持ち前の彩の変化を進ませるのは雨の所為だと執り、頻りに降る雨に早く彩を変えて、新しい色を見せてくれとせがんでいる雰囲気が良い。
 医者者の門花南天の馥郁と 父の忌やあの朝のごと梅雨戻る 三沢 眞下 杏子
 下日野沢 高山 ユウ
 ほととぎす啼いて御魂を慰めよ 回送のバス透けゆくや青胡椒 下日野沢 引間富美子
 幼な日の想ひをジャムに山桜桃 十葉の咲いてしづもる木影かな 皆野 大沼シヅ子
 三沢 新井 民子
 紫蘇つけて午後はやさしき指の先 老鶯や龍谷城は崩れざる 下日野沢 藤田 稔
 皆野 関口 未紀
 植え逝きし夫に手向けの花菖蒲 教え子を語る同志や青葡萄 三沢 長谷河ソノ
 金沢 青木富佐子
 湧き水に順番待ちの遍路の掌 兵なりし夫も老にて終戦日 三沢 石森 勝子
 下日野沢 藤原 道男

俳句・短歌を募集
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して
 総務課へお寄せください。
 1人1句、1首に限りです。
8日必着

1歳のお誕生日おめでとう



ひなな
陽菜ちゃん

大淵区
 太田 宏史さん
 和代さん
 鼻クソいっぱい夢いっぱい☆
 優しい女の子に育ててね



るな
琉菜ちゃん

駒形区
 田嶋 弘紀さん
 章子さん
 暴れん坊で泣きむし娘の
 ルナちゃん♡
 元気にのびのび育ってね!!



みず
美憂ちゃん

駒形区
 新井 隆司さん
 里子さん
 いつも可愛い笑顔をありがとう♡
 明るく優しい女の子になってね!